

日本沿岸域の植物プランクトンの季節変動について。

The seasonal cycle of phytoplankton biomass concentration along the coast of Japan

*島田 浩明¹、木田 新一郎²

*Shimada Hiroaki¹, Shinichiro Kida²

1. 九州大学・総合理工学府、2. 九州大学・応用力学研究所

1. Interdisciplinary Graduate School of Engineering Sciences, Kyushu University, 2. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

日本沿岸域で起こる植物プランクトンの季節変動を、2016年から2019年にかけて気象衛星ひまわり8号で観測されたクロロフィルa濃度を用いて調べた。植物プランクトンブルームは海洋の生物生産を支える一大イベントである。植物プランクトンの発生速度は海洋中の混合層の深さ、乱流の強さ、動物プランクトン量など様々な要因によって変化することが知られている。観測データから日本の沿岸域で2月下旬から4月にかけて春季ブルームが起こること、そして8月下旬から10月にかけて秋季ブルームが発生していることが確認できた。また、伊勢湾・駿河湾・釧路沖などでは年間を通して濃度が高くなっていた。沿岸域ごとの季節変動を調べると、緯度の高い海域ほど春季ブルームが遅れて発生すること、そして秋季ブルームが早く発生することが分かった。春季・秋季ブルームの発生時期は年によって大きくばらつくことも分かった。今後、春季・秋季ブルームの発生要因についてより詳細に調べていく計画である。